



栗中サッカー場を整備 建設協会が奉仕活動

栗山建設協会が5月13日、ボランティアで栗山中学校サッカー場の整備を行いました。今回はサッカー場の土をトラクターショベルで掘っていき、暗渠パイプを入れてから周りを土で覆い被せ、余分な土砂を取り除きました。岡山典弘現場責任者は「栗山の子どもたちはスポーツで優秀な成績を残しているの喜んで整備しています」と話し、杉田嘉雄教頭は「皆さんのおかげできれいになったグラウンドで今後、生徒が授業や昼休みに活用できると思います」と感謝していました。



街頭啓発 交通安全セーフティーロード作戦

「道民交通安全の日」に併せた交通安全の街頭啓発が5月16日、桜丘の国道234号沿いで行われました。町交通安全協会主催によるもので、栗山自動車学校の職員など関係者約50人が参加。「交通安全」と書かれた黄色い旗を振り、安全運転を呼びかけました。また、栗山警察署員の誘導で駐車場に入ったドライバーに「交通事故を防ぐため気を付けて運転してください」と手作りのマスコットやポケットティッシュなどを手渡すPR活動も行われました。



ふるさとを残す努力を ふれあいトーク

栗山オオムラサキの会が主催する「第75回ふれあいトーク」が5月12日、ふれあいプラザで行われました。町の歴史や文化について語らう場として、町民約35人が参加。講師の富樫利一さん（登別市在住）は町内の日出で生まれ、84歳になられた今も全国をまわってアイヌ民話の伝承活動を行っています。富樫さんは「アイヌ民族が自然と仲良く共生していたことを理解して、ふるさとを残す努力をしてほしい」と話していました。



未来につなぐ 生活協同組合コープさっぽろ植樹祭

生活協同組合コープさっぽろの社会貢献活動の一環として5月14日、桜山の町有地で植樹祭が行われました。植樹から木の活用までを視野に入れた循環型の森林づくりの活動を続けて今年で6回目。開会式でコープさっぽろ店舗本部の伊藤正男第2地区本部長が「今後も未来の森づくりをつないでいくため植樹を続けたい」とあいさつ。その後、町内外から参加した約80人は空知総合振興局森林室の職員から植樹の指導を受け、約20アールの町有地に400本のトドマツを植樹しました。

見どころが増えました 栗山公園オープン

栗山公園と園内のなかよし動物園が4月29日にオープンしました。小雨の降る天気でしたが開園前の動物園には親子連れの列ができ、オープン記念に配られたお菓子を受け取ると、さっそく動物園に入場。子どもたちは動物とのふれあいを楽しんでいました。今年、エゾシカの丘や新しい遊具「コンビネーション」、本物のSLをバックに写真が撮れる「キッズSL」などが新設され、見どころが増えています。たかはしダリアの高橋和則店長は「ぜひ遊びに来てください」と話していました。



栗山町の食と農を考える くりやま農業女性塾

若手女性農業者の関心を高め、地域農業の活性化を図ることを目的としたくりやま農業女性塾が5月11日、雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウスで始まりしました。新たに入塾された4人を含む12人が、「栗山町の食と農について考えよう！」などをテーマに、お便りの作成などを予定しています。入塾式では、森英幸理事長が「和気あいあいとした雰囲気の中で学んでください」とあいさつ。入塾1年目の伊東絵美さんは「いろいろなことを勉強して頑張りたいです」と話していました。



火災予防を呼びかけ 女性消防団火災予防運動PR活動

栗山消防団が4月23日、北雄ラッキー栗山店前で防火PR活動を行いました。4月20日から30日までの「春の火災予防運動」に合わせて実施するもので、昨年結成された女性消防団員など11人が参加。消防団員は、火災予防のチラシ、パンフレット、ティッシュを手渡ししながら買い物客に防火をPR。女性消防団員の小倉亜樹子さんは「女性消防団の活動も2年目になるので、さらに頑張っていきたいと思います。春は火災も増えるので予防をしてください」と話していました。



熊本支援募金活動を実施 栗山高等学校

熊本地震で被災された方の役に立ちたいと、栗山高等学校生徒会が4月27日から5月6日まで、北雄ラッキー栗山店前とマックスバリュ栗山店前で街頭募金活動を行いました。集まった生徒は「熊本地震の募金活動をしています。ご協力をお願いします」と大きな声で買い物客に呼び掛け、多くの方が募金をしていました。3年生で生徒会長の川瀬萌蘭さんは「自分たちのできることから取り組みましたが、多くの方に協力してもらい感謝しています」と話していました。